

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立九条小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 988-0064

宮城県気仙沼市九条327番地

E-mail kujou-sho@kesenuma.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 151名 女子 166名 合計 317名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「確かな学力をそなえ 豊かな心をはぐくみ 心身共にたくましく 成長する児童の育成」を学校理念として、環境領域を中心としたESDを推進していくこととし、ESDの実践を通して持続可能な社会づくりに関わる課題を解決するための力の育成を目標とした。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間を柱に、①地域に係わる活動、②自然(主に川、海)に係わる教育、③地場産品、食育に係わる学習、④まちづくりに係わる学習を行った。(ここでは、3年生と6年生の取り組みを取り上げて記載。)

① 地域に係わる活動

3年生の児童は、自分の通学路のコースを中心として「特色のある場所」や「自分のお気に入り、お薦めの場所」について調べることを目的として町探検を行った。見慣れた町をあらためて歩いてみると、普段気付かなかった発見があった。町探検の中で見つけた場所についてはポスター等にまとめて発表を行った。今度は安全か危険かの視点で町を見て回り、防災マップをつくることとした。安全な場所、危険な場所について地図にまとめていく中で、学区の民生児童委員や防犯協会の方に発表を行い、小学区のことをよく知っている人たちから地図への助言をもらうようにした。子どもたちが調べていく中で見つけた疑問に答えてもらうだけでなく、「ふたが外れていて気を付けなければ落ちてしまいそうな側溝」など、子どもたちが見つけた危険箇所について地域の人に発表することができた。子どもたちは調べたことと助言いただいたことをもとに、防災マップを完成させることができた。

④ まちづくりに係わる学習

6年生の児童は、「自然」、「福祉」、「食」、「防災」、「観光」といったいくつかのテーマ別グループに分かれ、気仙沼の魅力がどんなところにあるのか、またどのようにすれば更に気仙沼が良くなっていくのかという視点で調べ学習を行ってきた。例えば「防災」では、「Jアラートに関する市としての特別な対応策等についてインターネットを活用して調べた。「福祉」では、震災後子ども達の遊び場を支援するNPO団体に活動の様子等について取材を行った。「食」では、自分たちよりも下の学年の子達がどのような考えをもっているかと意識調査を考え、実施した。

いずれも、子ども達が自分たちで課題を見つけ、どうすればそれを解決できるかを考えた結果の活動となっている。自分たちでできることを実践しようとする態度が育っていると考えられる。



<① マップを発表している様子>



<④ まちの魅力についての発表会の様子>

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

書籍	まるかじり気仙沼ガイドブック	
ウェブサイト	気仙沼市ホームページ	
	気仙沼観光コンベンション協会	ほか

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育課程において、ユネスコスクールとしての活動は、環境領域を中心とし、生活科、総合的な学習の時間を主な活動時間としつつ学年の発達段階に応じた縦のつながりを意識した指導内容を位置づけている。各学年では調べた内容をポスターや新聞、パンフレット等にまとめ、互に見合ったりまた地域の人に発表したりするなどして意識的に発信していくようにしている。

また、社会科、理科といった他の教科や学年の行事等においても ESD の理念が抽出されるものについて関連させて教育計画に位置づけ、意識して指導するようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ ESD 担当の教員を配置し、活動の振り返りやそれに基づいた改善を行えるよう教師間で意見交流する場を設けている。
- ・ 年間指導計画の冊子があり、指導についての反省を朱書きすることで、次年度担当する教員が前年度の指導を参考にすることができるようにしている。
- ・ ESD の研修会に参加した教員は、研修日等で研修内容を伝講し、全体で共有化を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・ 学期毎に行う経営反省会において、各教員が ESD に関する自分の指導について振り返り、意見を出し合うようにしている。
- ・ 学校アンケートにおいて、回答用紙の中に ESD に関連した指導についての振り返り項目を設け、学校における指導が適切に行われているか意見をもらうようにしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

- ・ 防災マップを作成し地域の人に発表を行っている。子供たちが見つけた危険箇所を基に地域の方も点検を行い、危険箇所を市へ伝え改修するようにしている。（排水溝のふたや階段の手すりなど）
- ・ 神山川の水生生物調査を行い採取した水生生物の個体数により川の水質を調べている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

- ・ 学童農園の協力農家 菅原さん
- ・ NPO法人「森は海の恋人」
- ・ NPO法人「SEEDS ASIA」
- ・ 北かつ（宮城県北部鰹鮪漁業組合）
- ・ (株)白福本店

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

各学年での実践を通して身近な環境や社会事象に対する興味・関心が高まり、周囲の人や物と進んで関わり、つながろうとする気持ちが育ってきた。これは、地域人材や交流先と、効果的かつ円滑に連携し合い、活動してきた成果だと考える。また、昨年までの課題としてあった問題解決のための知識や技能について少しずつではあるが身に付けてきており、自分たちにできることを考え、実践しようとする意識やよりよい解決方法を追究する姿勢も徐々に育ってきていると考える。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度同様、生活科、総合的な学習の時間を軸とした指導を行っていく。それぞれの学年で活動の見通しをもち、発達段階に応じた課題発見力、発信力を育むために、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいてこれまで蓄積してきた人材を活用するとともに、現状の学習計画に海洋教育の観点を取り入れるなど発展的・多角的なものが見方が育つようなカリキュラムへと改善を図っていきたい。また、保護者や地域の方々、外部講師との学習活動を通して、地域の自然や人に対する興味・関心が更に高まるような、「身近な環境から問題を見つける子ども（主体的、創造的、協働的に取り組む態度）」への変容を目指していきたい。そして、学年の系統や学習の広がりを意識した指導計画の改善・修正を適宜行うことで、活動意欲や主体性が高まり、問題解決能力や学びを生活と関連付ける力の向上につながるように、計画と実践、反省を積み重ね、指導の改善に努めていきたい。